

平成 28 年 3 月 31 日

平成 27 年度の主な事業報告

社会福祉法人聖霊病院

I. 法人本部

1. 年間、理事会を 3 回、評議員会を 3 回開催し、法人内の施設事業の必要事項を決裁した。
2. 全施設の新規採用職員合同オリエンテーション、合同職員研修を実施し、本法人職員としての基本精神の涵養に努めた。
3. 院内報を 4 回発行した。
4. 新会計基準移行し、公認会計士の支援を受けて実施した。
5. 法人の情報、財務公開を全社協のホームページをとおして行った。

II. 聖霊愛児園

1. 入所状況： 児童定員 70 名に対し、本園、分園(地域小規模児童養護施設)を合わせて平均在籍数 46.7 名、充足率 66.7%であった。
2. 環境整備： 小規模グループケア開始に伴い間仕切り工事行い、入所児童の生活環境を整えた。
3. 行 事： 行事予定に従い実施した。予定した韓国養護施設職員・高校生との交流は、感染症マーズ流行のため、来年度に延期となった。
夏の自然体験は年齢別 5 班に別れ、富山、加賀で 3 泊 4 日実施し、貴重な体験となった。
地域交流の一環としての納涼祭り、県内児童養護施設高校生交流会も有意義であった。
施設対抗球技大会、ゲーム大会、野田山墓参も、予定どおりおこなった。
4. 人事給与： 年間採用者 5 名、退職者 3 名。定期昇給(20 名)ベースアップを実施。年度末に一時金を支給した。
5. 職員研修： 児童養護施設中堅職員研修(エンカウンターグループキャンプ)を含め外部研修参加は 10 件、25 名が研鑽を積んだ。
2月～3月、総括・自己評価を実施した。
6. 指導監査： 金沢市より 11 月指導監査を受けた。

III. 聖霊乳児院

1. 入所状況： 定員 35 名に対し、期中入所 26 名、退所 33 名、年間平均 12.1 名であった。
一時保護利用児 17 名、金沢市他、子育て支援短期利用児 10 名、病児一時保育利用児は、延べ 414 名(うち隔離児 2 名)。
2. 環境整備： エアコン入れ替え工事を行い、住居環境を整えた。
3. 保育・行事： 年間計画により院内外での保育を実施した。
行事をとおして他者との交わり、共にいることの喜びを体験できるよう計画し、実践した。
社会や、自然の動きを身近に体験し、市街地での生活の輪を広め深められるように努めた。
月齢にあわせた発育、健康管理に配慮した。本年度は感染症罹患幼児が皆無であった。
4. 人事・給与： 年間採用者 4 名、退職者 7 名、19 名の定期昇給を実施。
5. 研 修： 院内、市内で開催のものを除き、計 8 研修に延べ 14 名が参加し研鑽を積んだ。
6. 指導監査： 金沢市より 11 月指導監査を受けた。

IV. 聖霊保育所

1. 入所状況： 期首 128 名でスタートしたが、年度末は 145 人となり、定員充足率 117.4%となった。

2. 病児保育:体調不良児型利用児は延べ、210人。安全保育に努め、保護者のニーズに応えた。
3. 保育・行事:保育方針に基づき、保育内容の充実、行事を通して「カトリック精神に基づいた情緒豊かな子どもを育てること」を目標に「モンテッソーリ教育」を保育の基幹として子どもの自立への援助につとめた。
季節の行事を大事にして保育に取り入れ、保護者との個人懇談、保育参観を実施した。
4. 安全管理:毎月の防災避難訓練にも力を入れた。
を行い保育環境の整備を行った。
5. 人事・給与:期中の採用者3名、退職者3名。定期昇給10名実施した。
6. 研 修:県・市内での研修に積極な参加を推進した。
所内の研修は、今年度「モンテッソーリ勉強会」を月2回、「職場風土づくり」パートナー研修を全職員参加で研鑽を積んだ。

VI.金沢聖総合病院

1. 外来、入院ともに予想したほど患者は増えなかったが、医業収入は昨年の130.2%であった。
2. 入院患者は、病床数60床に対し入院一日平均34.9人と低調であった。
3. 新病院になり、電子カルテをはじめ、医療機器の効率稼働を進め医療業務環境の整備を図った。
4. 定期の防火訓練、消防設備点検を実施し、患者サービスと安全管理に努めた。
5. 職員の定期健診、インフルエンザワクチン、HBS 抗体、麻疹ワクチン等の接種を行い、職員の健康維持に配慮した。
6. 院内、外の研修に力を入れ、自主研修も推奨した。
7. 職員の経営意識を高めるため、月例連絡会議を運営会議と改め、院内での検討、情報交換を行うよう改組した。
8. 9月に病院創立100周年記念式典を盛況のうちに終えた。
9. 長年の医療未収金を今期清算した。

以上